

令和6年度第4回伊勢市子ども・子育て会議 議事録

日 時 令和6年11月7日（木） 午後3時30分～午後5時00分

場 所 伊勢市役所本庁舎東館5階 5-3、5-4会議室

出席委員 中條、秋山、花田、田口、中北、前島、竹内、山本、
伊藤、案浦、北川、中川、前田、大井戸

事 務 局 健康福祉部

- ・健康福祉部次長、健康福祉部参事
- ・子育て応援課 課長、子育て応援係長、こども育成係長、
こども育成係主事2名
- ・保育課 課長、保育係長、施設運営係長
- ・福祉総合支援センター 副参事、こども家庭相談係係長
- ・健康課 課長、母子保健係長
- ・生活支援課 課長
- ・こども発達支援室 室長

教育委員会事務局

- ・教育総務課 課長
- ・学校教育課 副参事
- ・社会教育課 課長
- ・教育研究所 所長

傍 聴 者 0名

議 題

(1)「伊勢市こども計画」(案)について

(2) その他

・事務局より委員・事務局紹介、資料確認

【事務局より】

議題（１）について説明（資料１、資料１－１）

（「●」は委員意見、「(委)」は意見に関する委員の意見、「→」は事務局回答を表す）

●基本理念について、第１期計画や第２期計画から引き継ぎつつ新しい要素を追加しているのか、それともアンケート調査結果等を受けた新しい理念としたのか。

→第２期計画の内容を基礎に、「こども基本法」の６つの基本理念を勘案している。こどもは権利の主体であることを認識し、こどもの最善の利益が最優先であるということを踏まえて、今回新たに追加した若者を盛り込んだ基本理念を提案させていただいた。

(委) 理念のところどころに定型的文言が使われているが、前の文言をそのまま使うよりも思い切って変える方が良いのではないか。

(委) 基本理念というのであれば、このように取り組んでいくという意味合いを強く出してもいいのではないか。前回のものよりも内容がぼやけており、メッセージ性が後退したように感じる。

→本計画の上位計画にあたる伊勢市総合計画の中で、少子高齢化を「笑子幸齢化」とうたっているのを受けて「笑顔あふれる」とし、前回までは子育て家庭への支援が大きかったが今回はこどもや若者を主体としていることから、地域社会全体の「つながりで」「こども・若者を育む」とした。

(委) それぞれのキーワードは良いと思う。基本理念は包括した表現でという考え方もあるが、前回が具体化されたものだったので、交代したような印象を受ける。今後、パブリックコメントを実施するが、委員の皆さんからもご意見があれば都度いただきたい。

●第２期計画に比べ医療的ケア児の支援が充実しており良い。医療的ケア児は今後どんどん増えていく可能性があるが、保育所（園）等ではどれくらい看護師が勤務しているのか。

→公立保育所（園）については、９園中８園に配置しており、未配置の１園は看護師が退職したため現在募集中である。私立保育所（園）は、全園には配置できていないと思われる。

(委) 保護者から医療的ケアの相談があった際など、どこの園に看護師がいるのかという情報が大切である。保育所（園）同士では把握していない様子だったので、適切な情報提供をお願いしたい。公立ではほとんど配置しているとのことで、承知した。

- 健康についての記載が少ない。これは事業の計画でもあるし、伊勢市に移住を考えている人の判断材料にもなる。伊勢市は特に小児科医の協力を得て小児科の休日・夜間応急診療所を実施しているが、していない市町もたくさんあると思う。休日や夜間でも診療や治療が受けられるのは特記すべきことではないか。また、伊勢市の独自の事業として、むし歯バイバイ教室及び3歳児へのフッ化物塗布事業を行っている。さらに学校では、学校医、学校歯科医、学校薬剤師、そして官公庁などの関係者でこどもの健康についての話し合いをする学校保健委員会を開催しているほか、小学校2年生と5年生に歯ブラシ指導や虫歯予防の授業を行っている。また、今年度からは、フッ化物洗口事業を公立の小学校と幼稚園を実施することも進めている。こういった取組をしていない市町もあるので、記載しても良いのではないか。

→伊勢市健康づくり指針にて全世代の健康づくりの取組を推進しているので、こども計画とも連携していく。記載については、今後検討する。

→学校関係の記載についても同様に検討する。

- 保育所（園）での看護師の配置状況について、私立保育連盟では把握していない。

(委) 公立だけでなく私立も含め、親御さんがこどもの今後を考える際に必要な情報を提供できることが大切なので、保育所（園）同士の情報共有は重要である。

- 93ページの放課後児童対策パッケージについて、「在籍している学校から離れた放課後児童クラブへの送迎を行う」とある。これは国が提示するパッケージの取組と思うが、伊勢市は取り組んでいくのか。実現すると保護者はとても助かると思う。

→タクシー会社と契約をして送迎を行い、放課後児童クラブが設置されていない小学校区の児童を受け入れているクラブもある。

(委) ファミリー・サポート・センターでも送迎サポートはしているが、毎日のことだと費用が負担になるので、一律にそういった制度があると良い。また、放課後児童クラブ

の質の向上については、必須だと思う。今、地域での繋がりがなくなっている中で放課後児童クラブはこどもにとって大切な居場所である。なので、その放課後児童支援員については、身分保障をしながら質の向上を目指していかなければならない。

→放課後児童支援員の質の向上については、積極的に研修に参加していただけるよう機会を捉えて案内をしていく。身分保障については、向上できるように取組を進めていきたい。

(委) 放課後児童クラブの送迎については、市が予算を持っているのか。

→国からの補助はあるが、上限が決まっているので。市の持ち出しもある。

(委) 予算の関係があるので難しいかもしれないが、取組を広げていくという考えを持っていたけると良い。また、放課後児童クラブの利用者は急激に数が増えており、同時に従事者が不足しつつあるので、伊勢市独自の支援員認定などあってもいいのではないか。

●こどもの居場所事業として「第三の居場所」という事業があるが、計画に記載はあるか。
→59ページの一番下にある「児童育成支援拠点事業」がそれにあたる。

●基本理念について、どうつながるのかどう笑顔があふれるのかイメージが湧かず疑問しかない。例えば子育てに必要な情報がここにあるというつながりでも良いのでは。

(委) 例えば「つながりで」は、何と何がどうつながるのか。例えば地域とのつながり、人と人とのつながりや情報を介したつながり、あるいはこども同士や学校間のつながりなのか、それら全部ということなのか。

→「つながりで」というのは資料1-1の3ページ4段落目にも記載したとおり、行政だけでなく地域社会全体で支え合い、市民、行政団体、企業や地域コミュニティなど、地域社会全体がつながり支援していくことが大事と考えているため、第2期計画でも使用している言葉を今回も採用した。

(委) 地域全体のつながりということ。では「笑顔あふれる」は誰の笑顔か。

→こども、若者の笑顔である。

(委) 次の「こども・若者を育む」のは誰か。

→地域全体である。

(委) そうすると、主体が行ったり来たりしているかもしれない。また「つながりで」の

主体やこども・若者の何を「育む」かは具体化されていない。「地域全体のつながりでこども・若者の笑顔が溢れるまち いせ」等でないと。

→前回会議で提示した骨子案の時点では、「つながりで こども・若者の幸せな未来を育むまち いせ」だった。今回、こどもの幸せな未来を育むことがこどもまんなか社会の実現であり大事なことで改めて思ったので、骨子案の基本理念を用いて、「つながりで笑顔あふれる こども・若者の幸せな未来を育む いせ」というのはいかがか。

(委) こどもにとっては、未来の幸せでなく、今幸せであることがとても大事。

(委) クラウドファンディングのチラシには「こどもたちの夢の実現を応援したい」というコンセプトがある。

(委) 「今の幸せ」が何かを考えてはどうか。

(委) 他にご意見がなければ、いただいたご意見を踏まえて、会長と事務局で検討させていただいてもよろしいか。

(委) 副会長も含めて、検討したい。

●51ページの教育研究所運営事業（郷土教育の推進）について、副読本・歴史資料を効果的に活用し郷土教育の推進を図るとあるが、具体的にはどのような内容なのか。

→こどもたちが自分の住んでいる地域の自然や環境、歴史、文化や伝統行事について興味を持って学ぶことで、自分たちが地域社会の一員だということの自覚や伊勢市に対する誇りや愛情を育んでいきたいと考えている。学校では、「わたしたちの伊勢市」という副読本を用いて、小学校3年生と4年生に授業を行っている。副読本は、実際にこどもたちを教えている先生とともに内容を検討しながら作成している。

(委) 3項目ぐらい、例をあげていただきたい。

→まず3年生では、自分たちが住む伊勢市とはどういう所かという内容で、地図上で森林が多いところや海に近いところなど全体を把握し、その中で、田や畑で働く人、海で働く人、工場で働く人というような労働の方にも目を向ける。また、自分たちの暮らしがいろいろなものに守られているという点から、火事や交通事故を防ぐというような内容であったり、暮らしが昔とどのように変わっているかについても学習をする。資料については、さまざまな関係機関に写真や資料をいただき、こどもたちがわかりやすいように掲載している。

(委) 実際に副読本を見たが、包括的かつ俯瞰的に、また焦点化されて、カラーや図表も

ふんだんに使って、こどもから見るととてもわかりやすいものになっていると感じた。

【今後の校正について】

今後の文言や表記の修正及びパブリックコメント前の最終チェックについて、会長と事務局に一任いただく。

【事務局より】

議題（２）について説明、次回の開催予定等

- 今回の計画に沿った取組によって、「どちらかと言えば子育てしやすい」という回答が減って「子育てしやすい」が３割を超えると良いなと思う。